



## 令和5年の新年を迎えて

新年明けましておめでとうございます。

昨年は不測の気候変動に見舞われ、さらにウクライナ戦争の勃発、急激な円安、物価高、日本を取り巻く他国からの脅威など激動の中、落ち着きのない不安な1年でありました。

翻って今年は、平穩に飛び跳ねる兎（うさぎ）に因んだ年に、そして何事もない安心・安全の活動が継続できますように願っています。

さて、コロナ禍の継続も3年目、ウイズコロナに慣れた感もあり、うべ環境コミュニティーの活動にも、やや余裕が出てきました。対面での講演会・研修会の開催は、その典型でしょうか。清掃活動、ESD活動、SDGs活動なども、コロナ予防対応のマニュアルに従い、幾分、用心しながらの開催ができるまでに落ち着きを取り戻しました。今を落ち着いた状況に置くことができるのは、この宇部市まちなか環境学習館に関わる各位、会員、その他、関わって頂いた多くの皆様のご協力のおかげかとひとえに感謝申し上げます。

最後に、新しい年を迎えるにあたり、本紙エコプラ

ザ通信の責任編集者の立場からひと言申し上げます。

本誌は10年以上の長きに亘り発行され、宇部市との業務委託契約が刷新された今後も、本紙面の編集方針に大きな変わりはなく、紙面の割り付け、組み換えに工夫を凝らします。また本誌は、2011年8月創刊から、すでに137号(2022.12までに)（約12年）の長きにわたり、様々な記事を掲載してきました。今後も、我々を取り巻く“環境”の持つ広義の意味を汲んで、宇部市の環境問題、ESD活動への啓発・支援、SDGs活動等々を掲載します。

“1年の計は元旦にあり”、“初頭のresolution(決意、誓い)“は？

この未曾有のコロナ禍にも負けない“新たな夢と希望に溢れる本誌として生き続ける、いわゆる“持続可能な”本誌であり続けます“

本年も皆様のご協力、ご支援のほどよろしくお願い致します。

うべ環境コミュニティー理事長 加藤泰生

## 東岐波をオリーブの郷へ

### 里海再生の会 寿恵村泰生

25年前に定年退職し、生まれ故郷の東岐波に帰り地域の自治会のお手伝いをするうち、ふるさとの良さが分かってきました。その一つが東岐波海岸の広大な干潟の素晴らしさでした。当時あさりも沢山取れ、遠く津和野方面からも潮干狩りに来ていました。このすばらしい干潟を後世に残せたらいいな、と有志を募り東岐波里海再生の会が誕生しました。10数名が集まり、アサリ復活のためいろいろのこと（川の浄化、海岸植樹など）を試みました。その後干潟の活動も漁業権がうるさくなり、アサリ養殖も多少軌道にのりかけていたのですが、手を引くことになりました。

平成24年宇部市農林振興課を中心に宇部市のオリーブ産地化が言われ始めました。東岐波にも適当な休耕地があり、市からの助成もあって、オリーブ栽培に踏み切りました。平成28年12月3日、



70本のオリーブ苗木を植えました。

オリーブは湿地を嫌う植物のため土地改良には大変苦労しました。オリーブは生長も早く5、6年すると実をつけ始め、地元中学生にも手伝ってもらい、実の収穫、選別を一緒にしました。ただオリーブの木は甘く虫も好んで入りこみ、木を枯らすことがあります。今年も沢山の実の収穫があり、オイル、新漬け、お茶をつくり販売しています。

わたくしたち里海再生の会のメンバーも後期高齢者が多く、これからが心配ですが、できるだけ若者（地元中学生など）と一緒に活動をしたいと思っています。

## 宇部市まちなか環境学習館 銀天エコプラザ

〒755-0045 山口県宇部市中央町二丁目11番21号

交通手段 JR宇部線：「宇部新川駅」徒歩7分

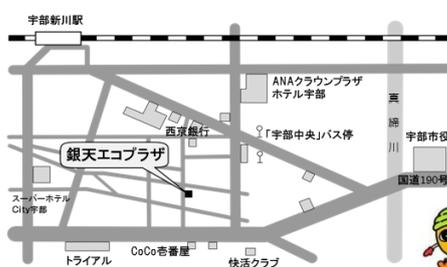
宇部市営バス：「宇部中央バス停」徒歩3分

駐車場 無し（近隣の有料駐車場等をご利用ください）

TEL/FAX 0836-39-8110 E-mail ubekuru@gmail.com

開館時間 9時～17時 HPアドレス <http://ubekuru.com/>

休館日 土・日、年末年始（12月29日～1月3日）



Home Page



facebook



twitter



# 持続可能な暮らしを求めて（1）ソーラーシェアリングの導入

阿東つばめ農園・生物文化多様性研究所

安溪遊地・安溪貴子

2011年の原発震災がきっかけで、山口市阿東高原の徳佐で、農業も化学肥料も使わない家族農業を始めました。1ヘクタールほどの面積で、お米と大豆を育てて販売。年金のない息子（39歳）には、独身でもとても暮らせないほどの収入しか得られません。これを解く鍵のひとつが、ソーラーシェアリングです。農地の上に2階建てでソーラーパネルを並べ、太陽光の3分の1は発電に、残りは農作物が利用するという、営農型ソーラー発電です。

光合成に使える光には作物ごとに上限があって、大豆だと45%、稲でも65%を超える強い光は、利用されていなかったのです。先進地の千葉県への見学を経て、山口県初号機として、実際に稼働を始めたのは2019年夏でした。20年間にわたって、毎年200万円程度の収入があるので、補助金や収入保険に頼らなくても、小規模な家族農業が続けられるという仕組みです。幸い、山口県には「市民エネルギーやまぐち」という営利をめざさない会社があって、書類づくりなどを請け負っていただきました。

パネルは、40年はもつといわれていて、現在の固定価格での買い取りが終わったら、蓄電式の軽トラやトラクターの動力源として使えるでしょう。作物ごと

に、どのような栽培法がベストなのかは、まだまだ手探りのところがあります。2020年の1月には、豪雪で倒壊という事故もありましたが、保険で再建。大学生や、わざわざ九州などから見学にこられる農家の方もあり、できるだけ丁寧に経験を共有するようにしています。若者が、小さな農業を柱に、なんとか地域に根ざして持続的な農業を切り開いていけるモデルになればいいな、と願っています。

次回4月号では、2023年2月26日（日）10時からの山口県環境保全型農業フォーラム（新山口駅前のKDDI維新ホール）の内容を紹介いたします。

URL <http://ankei.jp/yuji/?n=2633>



## イベントのお知らせ



### 第2回環境サロン

#### 『交通手段の選択と健康を考える』

- ・日時：2023年1月11日（水）18:00～20:00
- ・場所：宇部市新川ふれあいセンター（JR宇部新川駅から徒歩 5分）

「フレイル予防のウォーキングのすすめ」  
塩田 正俊さん（山口大学名誉教授）



「交通手段転換による健康への影響」  
鈴木 春菜さん（山口大学准教授）



- ・資料代 200円（高校生以下無料）
- ・申込：氏名、連絡先、対面・オンラインの別を環境学習館に連絡  
TEL：0836-39-8110  
メール：ubekuru@gmail.com 〆切 1月6日（金）

## 速報／第2回ESD研修会

### 『山口県におけるESDの取り組みについて』

この冬一番の寒波到来の12月17日（土）、宇部市立図書館にて、山口県環境学習センターの取組を田中勇さんに、高校生を対象としたSDGs自分ごと化プログラムの実践を津島榮さんに紹介頂きました。

県内のESD取組、講師派遣のヒント、教育現場のニーズを喚起する積極広報、親子プログラムの人気、農業体験の学びなど、興味深い内容です。ESDでは7つの力を育むこと（批判的に考える、協力して取り組む、意見を聞いてより良い提案など）が大切で、環境の知識学習と違う。

参加者21名は普段より若い年代も交じり、アンケートからコメントをいくつか紹介します。・教育現場では総合的学習の体験プログラムで子どもの活力を高めたい、小・中学校でも子どもの意見を活かし、仲間と良い提案につながる参考にしたい。

- ・余剰農地を学校農園にしたらどうか。
- ・意見交換の時間が大切。



## 職員より新年のひとこと



☆新春を迎えて：今年は干支（えと）でいうと、癸卯（みずのとう）の年。この干支にちなんで、旧弊から抜けだし、明るい方向に飛躍の一步を踏み出せるよう、努力したいと思います。（浮田 正夫）

☆今年のキャッチフレーズは、「持続不可能を考えよう」（津島 榮）

☆小さな目標をひとつひとつ達成し、継続していく事を心がけます。（柏井真規子）

☆晴耕雨読で体を動かし、東へ西へ旅して視野や交流を拡げ、展望をもっていろいろ発信したいと思います。（村上ひとみ）

☆今年こそ整理整頓、無駄なく暮らしたいです。（今井 晶子）